

豊明市地域包括ケア連絡協議会 代表者会 議事録

令和5年8月3日(木) 14:30~15:30

豊明市商工会館イベントホール

[出席委員] 14名(欠席 2名)

[関係機関] 5名(欠席 3名)

[傍聴] 0名

1、会長、副会長選任

豊明市地域包括ケア連絡協議会運営規則第5条に基づき、委員の互選により下記のとおり選出される。

会長 名古屋大学医学部附属病院 水野正明氏

副会長 東名古屋豊明市医師会 牧靖典氏

2、あいさつ

会長

地域包括ケアは2003年の「2015年の高齢者白書」の中で、超高齢者社会を迎える我が国の高齢者対策の切り札として提唱された仕組みであり、当面の目標に団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」の解決を上げてきた。高齢者のうち介護保険対象になる者は前期では数パーセント、後期では3分の1あるいはそれ以上になることから、社会にストレスを与えているのは後期高齢者人口となる。そこで2025年を目の前にした今日、豊明市においては後期高齢者人口の動態を視野に入れつつ、これまでの地域包括ケア関連事業が「2025年問題」の解決に役立ってきたか否かを検証する重要な時期に来ている。検証に当たっては地域包括ケアシステムの指標でもある介護予防・重度化予防・生活支援の3つの視点が求められる。例えば10年前の豊明市の重度化予防は大変厳しい状況であったが、各方面の協力・団結により改善し、その一部は「豊明モデル」として国でも知られるようになった成果など。しかしながら、市民や街がさらに良くなっていくにはまだまだ課題があり、次世代の豊明市を築いて行くためにも引き続き委員の皆様の協力をお願いしたい。

副会長

地域包括ケアシステムは新しい日本の「まちづくり」だと思っており、自分のライフワークである。皆様の日頃の活動から豊明市を日本一住みやすく安全で羨ましがられる「まち」としていくため、協力をお願いしたい。

- 3、今期より栄養士連絡協議会が委員として参加することとなった。豊明市地域包括ケア連絡協議会運営規則第7条第3項に基づき、栄養士連絡協議会神野委員が調査研究員会の委員として会長の指名を受けた。

4、議題

- (1) 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画にかかる住民健康実態調査の結果概要について
(資料1)の通り事務局から報告。

(会長)

住民健康実態調査を悉皆調査で行うのは素晴らしい取り組みであり、調査から得た課題についても良く分析できている。例えばBMI悪化と体重減少は重度化の要因であるとか、IADLの評価において服薬管理が重要であるなど。そこで今回の調査結果をもとに、さらに具体的な対象者を絞り込み、多職種連携を通して積極的な対策を講じてほしい。例えば要支援から要介護の移行の最大の要因は認知機能の低下であり、要介護者の重度化は骨折である事をしっかりと押えた対策が望まれる。栄養面、健康寿命延伸の面での取り組みも重要である。ケアの必要な人をしっかりと選び、適切なケアを提供していく体制整備が強く望まれる。

(委員)

資料1のⅡ-1-②に85歳以上の男性の「1年以内の転倒経験がない」が9.4ポイント増加している。一見すると改善しているように見えるが、新型コロナウイルスによる外出の減少により、転倒する機会が減少したと捉える方が適切に感じる。

- (2) 各委員(各団体)からの報告

資料2のとおり

豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」と公益社団法人豊明市シルバー人材センターは欠席のため事務局より報告。

豊明市消費者安全確保地域協議会(資料なし)

令和4年度実績

- ・「訪問販売お断りステッカー」を配布。
- ・消費生活講座の実施(3回、老人クラブ・地域サロン)
- ・高齢者相談件数 70件(全相談数 214件)

代表的な相談内容)訪問販売(点検商法によるリフォーム工事)、架空請求、インターネット広告やSNSによるフィッシング詐欺、ネット通信販売

民生委員やケアマネジャーとの情報共有をし、未然に防いでいく事が大切である。消費者庁も周囲の人が「気にかけること」「少しだけおせっかいをすること」が大切としている。お金に関する事は深く踏み込むことで気分を害する恐れもあるが、できる範囲でご協力をお願いしたい。

(会長)

各協議会より報告を頂いたが、共通課題のひとつにBCPがあった。今後はこのBCP対策を含め、市民のニーズに寄り添った活動が求められている。